

## 令和4年度こころの健康センター運営協議会 議事概要

開催日時：令和5年3月8日（水）19時30分～20時30分

開催場所：子ども家庭総合センター 4階 多目的室

出席者：峯真人委員、丸木努委員、比嘉千賀委員

欠席者：加瀬裕之委員

事務局：黒田副理事、辻村所長、甫母主幹、佐藤主幹、西尾主幹、古山所長補佐  
戸矢係長、沼澤主査、曲淵主査

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：0人

### 会議資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・さいたま市こころの健康センター運営協議会設置要綱
- ・令和4年度こころの健康センター事業実績報告
- ・令和3年度こころの健康センター所報

#### 1. 開会

#### 2. 挨拶（辻村所長）

#### 3. 議事

##### （1）令和4年度こころの健康センター事業実績報告

事務局より配布資料に沿って説明

##### （2）今後の運営に関する意見交換

##### 【比嘉委員】

アウトリーチ事業について、なかなか訪問もすることができないので連携していく必要があると思う。自分のクリニックでもそういったケースは存在しているが、アウトリーチ事業につなげられることはできるのか。

##### 【事務局】

事業としては区役所や保健所の精神保健課などで関わりがあるような方を挙げて頂いている。そこで、この事業にあたるかということを検討しているが、個別に相談してもらっても構わない。

##### 【丸木委員】

GPEについて、自殺未遂者の精神病院への転院について、法律上仕方がない部分かもしれないが、医療保護入院なのか措置入院なのかを疑問に思う部分もある。

手帳取得の際の診察を行っているが、不登校だった方が成人しているケースが少なくな

く、日常生活の基本的な部分で支援が必要となっている人が多い。日常生活を送るための支援がどこかで行われるといいのではないかと考えるが、今後の対策として検討していただければ。

精神医療審査会の委員に就任させていただいているが、かなり長期となっているため、見直しを検討していただけるとありがたい。

**【峯委員】**

子どもたちにも不登校というような社会に適応できないといったような問題などが顕在化しているため、そういう子どもたちが何とか社会と隔絶されないようなプログラムが必要なのではと感じる。また、子どもの自殺も増えているし、中等度以上のうつ症状も増えている。経済的問題もあるが家庭的問題もあるため、どういうふうにサポートしていったらいいのか、様々な問題が絡み合っているケースがとても多いと感じる。

**【比嘉委員】**

子ども家庭総合支援拠点について教えてほしい。

**【事務局】**

児童相談所とは別に、区役所へ福祉職等を3～4名配置し、不登校やそういった子を抱える親の相談など受けている。身近な区役所で相談できるよう体制強化は図っていきたいと考えている。

**【峯委員】**

子どもが相談に来る事例として、大分前からそういった状況であるにも関わらず、どこにも相談していないこともある。幼児期から行動に少し発達障害的な問題があるにも関わらず、学校に入ってみたら全然皆と同じ行動を取れずにどんどんこじれてしまっている。そういうケースをどういう形で把握したらいいのかなと把握する場面が難しいと感じる。

**【丸木委員】**

成人のADHDが今非常に増えている。保護者の方がそういったケースの場合もあり、治療に影響する場合にはなるべくフォローする体制があると望ましいと感じる。

**【峯委員】**

子ども家庭庁ができ、できる限り支援を国で行うように動き始めたが、具体的な部分を言えば、地域の中でどういうふうに関係機関で連携していくのかということを作り上げていかなくてならない。

**【事務局】**

現場である自治体でうまく連携できればメリットはあると感じる。

(3) その他

事務局より本協議会委員改選に伴う手続きについて説明。

4. 閉会